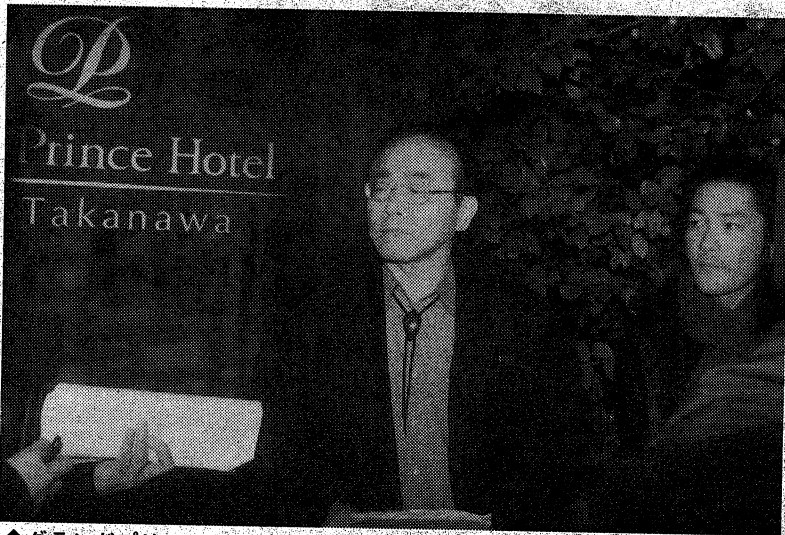


プリンスホテル事件の真相は

西武グループと政界人脈の影



↑「考える会」の毛利正道弁護士(右)と、西武グループの田嶋晴生弁護士(左)が、西武グループの代表者と面談する(7日)。

日教組が2日から開く予定だった教育研究集会の全体集會をめぐり、(株)プリンスホテルは、司法判断で使用命令が決まっていたにもかかわらず、宴会場の使用を拒否した。憲法21条に抵触する暴挙だ。右翼街宣車の騒音による受験生など他の宿泊客への悪影響を理由に挙げるが、本当の理由は何か。過去に総会屋と癒着した西武グループ特有の体質を指摘する向きもある。

まず、訴訟記録などから会場使用拒否に至った経過を振り返ってみる。

07年3月20日、日本教職員組合の総務部長がランドプリンスホテル新館高輪プリンスホテルの支配人と打ち合わせをした。その際、日教組側は第57次教育研究全国集會の会場として同ホテルの宴会場を使用したい旨を申し込んだ。

同時に日教組側は、前回の分限での教研集会の際に街宣車が来たことや警察による警備が実施されたことなどを説明し、特段の事件や事故も発生しなかったという意味で「問題なく実施している」とホテル側に伝えた。

3月末、日教組はプリンス

側から「飛天の間」と「プリンスルーム」を使用する内諾を得た。従来、全体集會は公共施設などで開催されるが多かったが、条件に見合う公共施設がすでに予約済みで、たまたま同ホテルが空いていたため、申し込んだ。

日教組は警備体制に万全を期した。07年10月18日、警察庁へ、08年1月18日、警察庁へ、それぞれ警備要請を行なった。警備や交通規制によって、多数の街宣車がホテル敷地を取り囲むような事態は十分避けられる予定だった。

ところが、同ホテルを経営する株式会社プリンスホテル(埼玉所沢市)の代表者(埼玉所沢市長)は07年11月12日、突如、日教組に対して契約解除を通告してきて、予定されていた宴会場に、ホテル側は契約解除を通知後の昨年12月、別団体と契約した。ちなみに、同社の全株主を(株)西武ホールディングス(後藤高志社長)が握る。

同日、同階宴会場「プリンスルーム」を同日にそれぞれ日教組へ使用させるよう命じる仮処分決定を下した。08年1月16日に同仮処分が認可決定された。東京高等裁判所は1月30日、プリンスホテルの抗告を棄却した。

地裁は仮処分決定の理由として「債権者(日教組)に求められている信義則上の説明義務に違反したとは認められない」とした。また、地裁は、プリンスホテルが利用規約違反を契約解除の理由としたことを「第三者が周辺で騒音を発する」とおそれ、それがあり、規約が規定する解約事由に当たらない」と指摘した。

一方、プリンスホテルは14日、本紙の取材に対して、契約解除の理由を書面(5日付公開文書と同じ)で回答した。学校や病院、住宅が集まる高輪での開催の現実性や入試に甚大な被害を及ぼす可能性を考慮していただきたかった、というのが当社の率直な思い」と記した。

またプリンスホテルは自らの司法判断無視の暴挙を棚に上げて「当社はコンプライアンス(法令順守)体制の確立を経営の最重要課題の1つとして経営改革を進めておられます」と、取って付けたような文言が並んだ。教研集会半世紀以上の歴史で、初めて全体集會が中止する

と、この問題で西武グループ特有の現象と受け止める向きもある。

西武グループについては、総会屋への利益供与事件で04年4月に経営の総責任者の座を降りた元オーナー・堤義明氏の影が見え隠れする。保守政治家として衆議院議長も務めた父康次郎氏から引き継いだ義明氏の政界人脈は深く、広範だ。早大の観光学会というサークルでは故・小淵恵三元首相が後援に当たり、麻布中学・高校の2年後輩に当たる福田康夫現首相とはかなり仲のともいわれる。もちろん、義明氏は04年10月に、有価証券報告書への虚偽記載の責任を取り、コクドや西武鉄

道をはじめグループ全役員職から退いており、今回の日教組問題に關与した事実はこのころ見当たらない。しかし、長年染み付いた政治銘柄としての体質が今回の事件の遠因とみることは否定できないだろう。

「西武を潰した総会屋」芳賀龍臥(WAVE出版)の著者・平井康嗣さんは「自民党派閥の清和政策研究会(町村信孝派)の事務所が自民党本部近くにあるランドプリンスホテル赤坂(旧赤坂プリンスホテル)別館2階に長期間借り上げしている。このことに象徴されるが、西武グループと自民党の関係は奥深い。文教族のドンと呼ばれる森喜朗元首相は日教組幹部が困って喜んでいるだろう」と指摘した。

また加えて、04年当時、結局ウヤムヤになってしまっただが、西武グループの西武不動産による右翼大物への不動産売却での利益供与が存在し

道をはじめグループ全役員職から退いており、そもそも西武不動産が頭を抱えていた利益供与はどちらのほうか先。「総会屋」一派は、小物だったからこそ司法当局の対象になった。結局、この右翼に何ら刑事責任は問われていない。古い西武を知る生え抜き幹部にとつて、右翼に対するアレルギーは今でも強いはず」と語る。

そして、平井さんは、右翼については「日教組、全教の年に1回の集會を開催させないことは右翼にとつて大いベント。総力を挙げて阻止すべく、かれこれ20年近く運動を続けている。裁判所から仮処分が出て後々会場を貸すというのが慣例だが、宿泊施設が会場を貸さなかったことは初めてではないか。今、右翼の間ではプリンスホテルはよくぞまっとうなことをしたと評判になっている。来年の会場先はプリンスが、画期的な前例を作ったため、相当、判断に困るだろう」とみる。

「債務者(プリンスホテル)による本件契約の解約は無効」

東京地方裁判所は、07年12月26日(株)プリンスホテルに対してランドプリンスホテル新館高輪地下1階の大宴会場「飛天」を2月1、2の

と、この問題で西武グループ特有の現象と受け止める向きもある。

西武グループについては、総会屋への利益供与事件で04年4月に経営の総責任者の座を降りた元オーナー・堤義明氏の影が見え隠れする。保守政治家として衆議院議長も務めた父康次郎氏から引き継いだ義明氏の政界人脈は深く、広範だ。早大の観光学会というサークルでは故・小淵恵三元首相が後援に当たり、麻布中学・高校の2年後輩に当たる福田康夫現首相とはかなり仲のともいわれる。もちろん、義明氏は04年10月に、有価証券報告書への虚偽記載の責任を取り、コクドや西武鉄

道をはじめグループ全役員職から退いており、そもそも西武不動産が頭を抱えていた利益供与はどちらのほうか先。「総会屋」一派は、小物だったからこそ司法当局の対象になった。結局、この右翼に何ら刑事責任は問われていない。古い西武を知る生え抜き幹部にとつて、右翼に対するアレルギーは今でも強いはず」と語る。

そして、平井さんは、右翼については「日教組、全教の年に1回の集會を開催させないことは右翼にとつて大いベント。総力を挙げて阻止すべく、かれこれ20年近く運動を続けている。裁判所から仮処分が出て後々会場を貸すというのが慣例だが、宿泊施設が会場を貸さなかったことは初めてではないか。今、右翼の間ではプリンスホテルはよくぞまっとうなことをしたと評判になっている。来年の会場先はプリンスが、画期的な前例を作ったため、相当、判断に困るだろう」とみる。

道をはじめグループ全役員職から退いており、そもそも西武不動産が頭を抱えていた利益供与はどちらのほうか先。「総会屋」一派は、小物だったからこそ司法当局の対象になった。結局、この右翼に何ら刑事責任は問われていない。古い西武を知る生え抜き幹部にとつて、右翼に対するアレルギーは今でも強いはず」と語る。

そして、平井さんは、右翼については「日教組、全教の年に1回の集會を開催させないことは右翼にとつて大いベント。総力を挙げて阻止すべく、かれこれ20年近く運動を続けている。裁判所から仮処分が出て後々会場を貸すというのが慣例だが、宿泊施設が会場を貸さなかったことは初めてではないか。今、右翼の間ではプリンスホテルはよくぞまっとうなことをしたと評判になっている。来年の会場先はプリンスが、画期的な前例を作ったため、相当、判断に困るだろう」とみる。

道をはじめグループ全役員職から退いており、そもそも西武不動産が頭を抱えていた利益供与はどちらのほうか先。「総会屋」一派は、小物だったからこそ司法当局の対象になった。結局、この右翼に何ら刑事責任は問われていない。古い西武を知る生え抜き幹部にとつて、右翼に対するアレルギーは今でも強いはず」と語る。

そして、平井さんは、右翼については「日教組、全教の年に1回の集會を開催させないことは右翼にとつて大いベント。総力を挙げて阻止すべく、かれこれ20年近く運動を続けている。裁判所から仮処分が出て後々会場を貸すというのが慣例だが、宿泊施設が会場を貸さなかったことは初めてではないか。今、右翼の間ではプリンスホテルはよくぞまっとうなことをしたと評判になっている。来年の会場先はプリンスが、画期的な前例を作ったため、相当、判断に困るだろう」とみる。

道をはじめグループ全役員職から退いており、そもそも西武不動産が頭を抱えていた利益供与はどちらのほうか先。「総会屋」一派は、小物だったからこそ司法当局の対象になった。結局、この右翼に何ら刑事責任は問われていない。古い西武を知る生え抜き幹部にとつて、右翼に対するアレルギーは今でも強いはず」と語る。

そして、平井さんは、右翼については「日教組、全教の年に1回の集會を開催させないことは右翼にとつて大いベント。総力を挙げて阻止すべく、かれこれ20年近く運動を続けている。裁判所から仮処分が出て後々会場を貸すというのが慣例だが、宿泊施設が会場を貸さなかったことは初めてではないか。今、右翼の間ではプリンスホテルはよくぞまっとうなことをしたと評判になっている。来年の会場先はプリンスが、画期的な前例を作ったため、相当、判断に困るだろう」とみる。

↑メルマガ「非戦つうしん」に殺到した抗議の声。

成るといような、実行先行社会、無法状態に進みかねないのでしょうか。

95 岡本 厚(岩波書店「世界」編集長)
当たり前のように、言論の自由を封じる行動を、ホテルが取つたと感じます。おかしいこととおかしいと言わなければ、いつか物言え時代が作られていきます。

96 木村誠(司法書士・東京都)
裁判所の決定も無視し、民主主義に敵対してまで、守りたいホテルで、貴社が守りたいのは、右翼さんの主張と行動なんですね。ゴルフもスキーもホテルも利用しません。

97 伊藤克之(弁護士・小平市)
右翼の脅迫に屈し、憲法上強く保護されるべき表現の自由をとったばかりか、司法の判断も無視したプリンスホテルは、自らの行に与える影響をどのように考えているのでしょうか。「自分にとつかわない表現活動は、脅迫すればつづがる。司法の判断も無視できる頼った教訓を、広く世の中に広めてしまったのではないのでしょうか」

98 高橋右京(弁護士・東京都文京区)
私も過去、箱根のプリンスホテルに泊まったことがあります。私も過去、箱根のプリンスホテルに泊まったことがあります。私の件は本当に残念です。企業としての常識・良心を疑います。